

バイオマス発電 19年9月に操業

伊万里グリーンパワー

伊万里市の県営七ツ島工業団地で、ヤシ殻を主な燃料にバイオマス発電を計画する「伊万里グリーンパワー」(佐賀市)の朴寿錠(ハクスジヨウ)、坂本徹哉の両社長は17日、県庁で山口祥義知事に、発電事業を2019年9月に始めると報告した。

同社は韓国のレストラン建設「ウェルクロンハンテツ

ク」と佐賀市の商社「アグリ」が共同出資。経営難を理由に同団地での計画を断念した日本新電力の事業を引き継いだ。15・4基に発電プラント2基(出力4万6千瓩)を建設し、九州電力に売電する。総投資額は約200億円。

ヤシ殻は東南アジアから伊万里港に運び、約60人の雇用を見込む。朴社長は「レストランの建設、運営を通じて地域活性化に努力する」と述べ、坂本社長は「クリー

ンエネルギーで環境にも貢献したい」と話した。山口知事は「事業を盛り上げたい」と語った。(長田周三)